

ヒューマンコミュニケーショングループ  
Human Communication Group

ニューズレター

2008 年度 No.1

URL: <http://www.ieice.org/hcg/jpn/>

### Contents

- ・ 新運営委員長挨拶
- ・ 第13回HCGシンポジウム報告
- ・ ヒューマンコミュニケーション基礎研究会 (HCS) 活動報告
- ・ 研究会・関連行事カレンダー

### ヒューマンコミュニケーショングループ らしさの継続

平成 20 年度ヒューマンコミュニケーション  
グループ運営委員長 佐藤誠 (東京工業大学)



現在、ヒューマンコミュニケーショングループ (HCG) にはいくつかの研究会があるか、ご存知でしょうか。「ヒューマンコミュニケーション基礎研究会 (HCS)」、「ヒューマン情報処理研究会 (HIP)」、「マルチメディア・仮想環境基礎研究会 (MVE)」、「福祉情報工学研究会 (WIT)」の4つの第一種研究会、「Webインテリジェンスとインタラクション研究会 (WI2)」、「脳情報通信研究会 (BICT)」、「身体性情報学研究会 (IEB)」の3つの第二種研究会、そして「ヴァーバル・ノンヴァーバルコミュニケーション研究会 (VNV)」、「料理メディア研究会 (CM)」、「人間と ICT 倫理研究会 (EHI)」の3つの第三種研究会、あわせて10の研究会がすでに設置されています。グループ発足当初から続いている研究会から昨年度生まれたばかりの若い研究会まで、それぞれの研究領域で独自性をもって活発な活動を展開しています。

本学会がソサイエティ制を導入することになった 1995 年に、新制度導入以前の基礎・境界グループの中にあつたヒューマンコミュニケーション研究会が母体となり、4つのソサイエティとは異なるグループ組織として HCG は創られました。はじめは三つの第一種研究会からスタートしましたが、学会内外の学際的、横

断的な研究活動の場を年々拡げてゆき、発足以来 14 年を迎えて、10 研究会まで大きく成長したことになります。ヒューマン(人)を中心に据えたコミュニケーションの研究の重要性はこれからますます高まる一方であり、さらに新たな研究会が生まれてくるに違いありません。

学会活動の活性化と財政基盤の健全化を目指した各ソサイエティの独立採算化が本年度より本格化いたします。HCG もこの独立採算化の問題を避けて通ることはできません。このことに関しましては、数年前より相澤清晴 HCG 元委員長ならびに行場次朗 HCG 前委員長のリーダーシップの下、綿密な検討を重ねてきました。すなわち、HCG は、これまでの運営形態を尊重し、その特徴である学際的、横断的な活動をいままで同様に活発に進めるべきである。ソサイエティ化による既存ソサイエティとの不必要な競合は望ましくない。さまざまな事業活動の活性化により財政基盤の確立を目指す必要がある。等々。そして、今後の基本方針として「グループ制の継続」が明示されました。本年度は、この基本方針の具体化のスタートの年となります。

昨年度は、HCG のこれまでの活動およびこれからの活動に関して、会員の皆様の声を聞くためのアンケートを実施いたしました。その調査結果が上記基本方針にも大きく反映されています。また、このアンケートでは、具体的な今後の活動に関しても貴重なご意見やアドバイスをいただきました。その一部をご紹介します。HCG の特徴は自由な雰囲気、境界領域のテーマを様々な分野の人々と議論できる楽しい場、思い参加しています。組織のさほど大きくない小回りの利くところに魅力があります。誰でも

気軽に発表できるオープンな場であり続けてほしい。各研究会の壁を越えた交流企画を行うと良いのではないか。HCG らしくインターネットなどを活用したバーチャルな組織運営はどうでしょう。

ご存知のように HCG では、毎年春に総合大会に併せて HCG シンポジウムを開催しています。HCG 全体の研究交流の場として皆様も毎年楽しみにしているかと存知ますが、今年度はこのシンポジウムをさらに HCG の独自性を高めてより魅力的な企画にできればと考えております。現在、企画 WG を立ち上げて検討をはじめているところです。このシンポジウムを含め、HCG の事業活動がより一層楽しく充実して、会員の皆様に積極的に参加していただくことが、HCG の基本方針「グループ制の継続」の実現のための近道だと思われまます。

今後ともご理解、ご支援をよろしくお願いいたします。

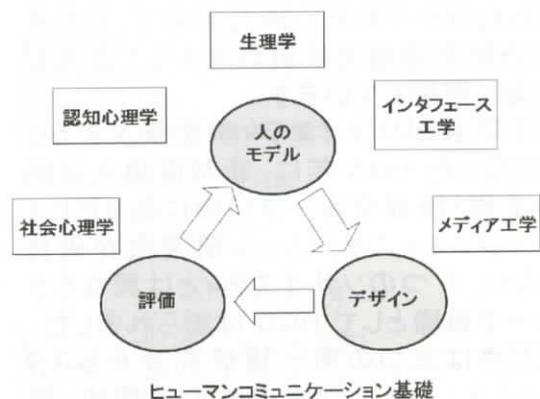
ヒューマンコミュニケーション基礎研究会 (HCS) 活動報告

専門委員長 武川直樹 (東京電機大学)

「ヒューマンコミュニケーション基礎研究会」の看板をかかげておりますが、「ヒューマンコミュニケーション基礎研究」という研究分野は確立していません。「ヒューマンコミュニケーション基礎研究」とは、「人と人のコミュニケーション」、「人と機械のコミュニケーション」、「人と人を機械で結ぶコミュニケーション」を分析・評価し、その結果を理論化し、さらに役に立つシステムとしてデザインする、広範な研究の取り組み全体を呼ぶものと考えています。研究の取り組みのために、社会心理学、社会学、認知心理学、生理学、インタフェース工学、メディア工学など、これまでの研究学問分野のアプローチが必要になります(図参照)。すなわち、コミュニケーションを様々な立場から研究する科学を融合して、専門分野の異

なる研究者がコミュニケーションについて議論する場を提供するのが本研究会の役割と考えています。

研究会では、言語・非言語コミュニケーション(言語、会話、顔、視線、ジェスチャーなど)分析、ロボットや擬人化エージェントとのインタラクションデザイン、ユーザビリティ、遠隔対話支援などがこの数年活発に研究報告されています。また、他学会との共同開催を積極的に進め、日本社会心理学会、ヒューマンインタフェース学会、日本顔学会、映像情報メディア学会メディア工学研究会、信学会の HIP 研究会、MVE 研究会、VNV 研究会等と研究会を共催しています。心理学、社会学、生理学、工学、それぞれの研究者の立場で進めた研究がたくさん報告され、専門分野横断的に参加されている研究者によって活発な議論がなされています。しかしながら、現状の研究会はまだ満足できる状況ではありません。今後チャレンジするテーマを探す努力や研究会の将来の目標として分野をまたぐ共同研究の機会を提供することが必要ではないかと考えています。そのための第一歩として、2007 年 11 月の研究会では、合宿形式でポジションペーパーを持ち寄り、ディスカッションの試みを行い、成果をあげました。今年度も同様の合宿形式の研究会で、今後の方向性を議論する予定です。今後の発展には、皆様のご協力が必要と考えております。貴重なご研究の投稿、参加を切にお願い申し上げます。



第13回ヒューマンコミュニケーション  
グループ (HCG) シンポジウム報告

企画幹事 森島繁生 (早稲田大学)

HCGの年に一度の研究会合同イベント「HCGシンポジウム」が、今年も北九州学術研究都市で開催された本会総合大会(3月18日～21日)に引き続いて、3月22日(土)と23日(日)の両日に同学研都市の産学連携センターにて開催されました。例年通り、HCG傘下第1種の4研究会(HCS, HIP, MVE, WIT)と2つの第2種研究会(WI2, BICT)および1つの第3種研究会(CM)が同時開催の形で実施されました。また、特別企画として、『芸術とコミュニケーション』をテーマにした招待講演を2件実施いたしました。

シンポジウム参加人数は、第一種研究会のみの統計ですが、22日に132名、23日に83名となり、活発な質疑応答が行われました。また、この数字には反映されていませんが、特に「Webインテリジェンスとインタラクション研究会(WI2)」の参加者が群を抜いて多く、確保した大研修室がほぼ満席になるほどの盛況ぶりでした。今後の研究分野への関心の高まりを実感することができました。

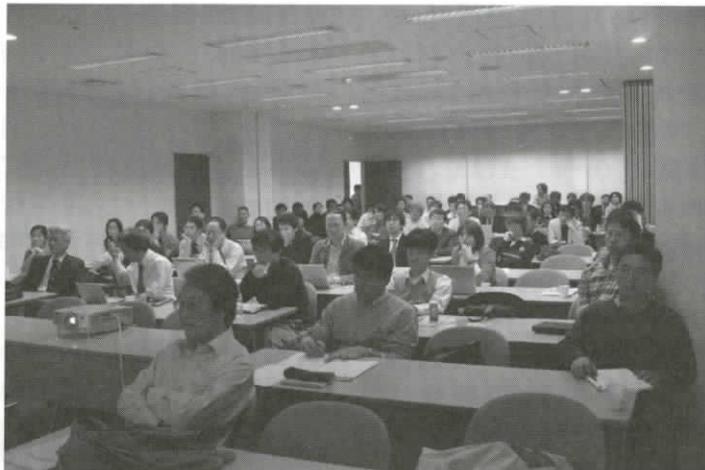
また1年間の優秀研究会論文を表彰する「ヒューマンコミュニケーション賞」の贈呈式が、23日のお昼に会議場イベントホール(懇親昼食会会場)で行われ、

6名の受賞者に委員長の行場次郎委員長(東北大)より賞状と記念品が贈呈されました。

HCG特別企画では、東京芸術大学の藤幡正樹氏と、九州大学の三浦佳世氏をお招きし、「芸術とコミュニケーション」という切り口からご講演をお願いしました。藤幡先生は、特に絵画におけるコミュニケーションのあり方を分析考察する場合、それを意味内容(コンテンツ)と、それを伝達する媒体(メディア)に分解する考え方は一般的ではなく、メディアそのものがコンテンツとなるのが芸術(創造)であることを理解する必要があると述べられました。また三浦先生は、コミュニケーション手段としての視線に着目し、視線情報の絵画の中での取り扱いに触れられ、作品とそれを見る鑑賞者とのコミュニケーションについて、浮世絵を題材とした心理実験を通して考察されました。いずれも、ヒューマンコミュニケーション研究の今後の展開を考える上で重要な考え方を与えて頂きました。

次回のHCGシンポジウムは、2009年度総合大会の時期に合わせて、愛媛大学周辺にて開催の予定です。詳細が決まり次第、ご通知申し上げます。

最後に、ローカルアレンジメントとして、会場の手配からコーヒーブレイクの準備など、ご尽力頂きました早稲田大学の岡田稔先生に、改めてお礼を申し上げる次第です。



特別企画に熱心に聞き入る研究会参加メンバー

## ヒューマンコミュニケーショングループ研究会・関連行事カレンダー

詳しくは、HCG ホームページ <http://www.ieice.org/hcg/jpn/> をご覧ください。

### — 2008年9月 —

★第7回科学情報フォーラム(FIT2008)  
【期日】2008年9月2日(火)～4日(木)  
【会場】慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス  
【HP】<http://www.ipsj.or.jp/10jigyo/fit/fit2008/>

★ヒューマン情報処理研究会(HIP)研究会  
【期日】2008年9月5日(金)～6日(土)  
【会場】慶應義塾大学日吉キャンパス  
【題目】「手・顔・身体表現の認識・理解」および一般

### — 2008年10月 —

★マルチメディア・仮想環境基礎研究会(MVE)研究会  
【期日】2008年10月2日(金)～3日(土)  
【会場】釧路市観光国際交流センター  
【題目】複合現実感、仮想都市、および一般  
【HP】<http://www.ieice.org/~mve/>  
【共催】VR学会 SIG-MR, SIG-CS と共催

★福祉情報工学(WIT)研究会  
【期日】2008年10月22日(水)～23日(木)  
【会場】国立身体障害者リハビリテーションセンター  
【HP】<http://www.ieice.org/~wit/program/index.html>

★身体性情報学研究会(IEB)研究会  
【期日】2008年10月23日(木)～24日(金)  
【会場】東北大学

★ヒューマンコミュニケーション基礎(HCS)研究会  
【期日】2008年10月11日(土)  
【会場】東京大学 本郷キャンパス  
【題目】顔とコミュニケーション  
【共催】日本顔学会(フォーラム顔学2008)、  
映像情報メディア学会メディア工学研究会

★ヴァーバル・ノンヴァーバル・コミュニケーション(VNV)研究会  
【期日】2008年10月中～下旬  
【会場】京都大学

★脳情報通信(BICT)研究会  
【期日】未定  
【会場】東京ビックサイト

### — 2008年11月 —

★マルチメディア・仮想環境基礎(MVE)研究会  
【期日】2008年11月27日(木)～11月28日(金)  
【会場】大阪大学 豊中キャンパス  
【題目】アンビエント環境知能  
【共催】PRMU と共催

★ヒューマンコミュニケーション基礎(HCS)研究会  
【期日】未定  
【会場】金沢

★ヒューマン情報処理研究会(HIP)研究会  
【期日】未定  
【会場】金沢  
【題目】「感覚情報処理&手」および一般

### — 2008年12月 —

★ヴァーバル・ノンヴァーバル・コミュニケーション(VNV)研究会  
【期日】2008年12月中旬  
【会場】東京大学

★福祉情報工学(WIT)研究会  
【期日】未定  
【会場】産業総合研究所臨海副都心センター  
【共催】ヒューマンインタフェース学会研究会と共催

★Web インテリジェンスとインタラクション(WI2)研究会  
【期日】未定  
【会場】東京大学

★脳情報通信(BICT)研究会  
【期日】未定  
【会場】静岡大学

★ヒューマン情報処理研究会(HIP)研究会  
【期日】未定  
【会場】東北大学

### — 2009年1月 —

★マルチメディア・仮想環境基礎(MVE)研究会  
【期日】2009年1月14日(水)～15日(木)  
【会場】宮崎シーガイアコンベンションセンター

★身体性情報学研究会(IEB)研究会  
【期日】2009年1月中旬  
【会場】北海道大学

★ヒューマンコミュニケーション基礎(HCS)研究会  
【期日】未定  
【会場】札幌

### — 2009年2月 —

★福祉情報工学(WIT)研究会  
【期日】2009年2月13日(金)～14日(土)  
【会場】愛媛大学  
【共催】聴覚研究会(日本音響学会)と共催

★脳情報通信(BICT)研究会  
【期日】未定  
【会場】NTT 武蔵野

### — 2009年3月 —

★HCG シンポジウム(新企画予定)  
【期日】2009年3月23日(月)～24日(火)  
【会場】島根大学